
すのこベッドの販売数がコロナ禍前の約4倍に コロナ禍でより入念な梅雨対策を行う人が増加傾向

ベッド通販専門店 ベッドスタイルを展開するカヴァースジャパン株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役：青木康裕）では、すのこベッドの販売台数がコロナ禍前の約4倍となっています。

自宅に滞在する時間が増えたことにより、住まいの空気環境に関心が高まっていることがうかがえます。

特に、湿気による空気環境の悪化が懸念される梅雨前に、湿気対策に有効なベッドに買い替え、住まいの空気環境を整えようとする動きが見られます。

【すのこベッドが人気を集めている背景】

コロナ禍を経て、梅雨時期の湿気対策をより入念に行う人が増えています。テレワークやステイホームにより、在宅時間が増えたことで、住まいの空気環境への関心の高まりが理由の一つと考えられます。

コロナ禍前より在宅時間が増加した人のうち、約7割の人が自宅の空気に「息苦しさ」や「停滞感」を感じているという調査結果があります。

また、自宅の空気環境の課題として、「空気のよどみ」「快適な温度と湿度の維持・調整」を挙げる人が多く、テレワークでのパフォーマンスに影響すると考え、空気環境を見直し・改善する動きが見られます。

【すのこベッドの売上増加】

そんななか、カヴァースジャパン株式会社には「すのこベッド」の注文が殺到しています。

「すのこベッド」の販売台数は2019年4月では99台。コロナ禍が始まった2020年4月は316台と販売台数が急増し、2021年4月は425台、2022年4月では395台と約4倍となっています。

コロナ禍が始まった当初は、在宅時間の長時間化に伴い、模様替えを目的とした商品購入が目立ちました。ですが、ウィズコロナの生活が定着した今は、より生産性のある住まいへアップグレードするための家具買い替えの動きが見られます。

通気性が良く、湿気対策に有効とされるすのこベッドも、こうした生産性のある住まいに一役買うアイテムとして人気を集めています。